

# 社史でつなごう！地元企業と高校生

木下 和子（飯田市立鼎図書館）

## 1. はじめに

飯田市立図書館では約 15 年前からビジネス支援サービスに取り組んでおり、その特徴の 1 つとして、市内はもちろん、県内・全国あわせて約 1,000 冊の社史を所蔵していることが挙げられる。ビジネス支援サービスを開始した当初はこの社史を活用した講座や展示なども行っていたが、時が経つにつれてその活用が図られなくなっていき、札幌市中央図書館の浅野氏がおっしゃっていたように「ものすごく使いづらい宝の山」と化しているのが現状である。今回、ビジネス・ライブラリアン講習会を受講して、この半ば眠っている状態の社史の活用を考えていくことが、これからの飯田市立図書館のビジネス支援サービスをより充実させていくために重要であると気づくことができた。

そこで、ワークショップで提案した図書館が地元企業と高校生をつなぐ企画を、「図書館が所蔵する社史」でつなぐ企画として再考することでビジネス支援サービスの充実を図るとともに、飯田市全体で取り組んでいる新規高卒者、新規大学等卒業者の地域内就職率の向上に寄与できるのではないかと考え、このレポートで検討・提案したい。

## 2. 飯田市を取り巻く状況

### 2-1 飯田市を取り巻く状況

長野県南部に位置する飯田市は、人口約 97,300 人の天竜川に沿って南北に広がる伊那谷に位置する地方都市である。また、飯田市はリニア中央新幹線の長野県駅ができる市でもあり、総合計画に位置付けられている「いいだ未来デザイン 2028」<sup>1</sup>は、リニア中央新幹線開通の翌年にあたる 2028 年に、みんなで実現したい「くらしの姿」「まちの姿」をビジョンとして掲げ、その実現に向けて多様な主体がそれぞれの立場で「飯田の未来づくり」にチャレンジするための指針として、2017 年度から 2028 年度までの計画期間で策定されている。

その「いいだ未来デザイン 2028」では、ビジョンの実現に向けて前期、中期、後期の 4 年単位で戦略的かつ重点的に取り組むテーマを基本目標として設定している。2017 年度から 2020 年度の前期計画では、基本目標 1 に「若者が帰ってこられる産業をつくる」<sup>2</sup>が掲げられ、2021 年度から 2024 年度までの中期計画においても、基本目標 2 「飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる」の戦略（考え方）の中で、「高校生や大学生と地元企業とを『つなぐ』事業を推進し、地域と若者の関係を深め、地元企業の人材確保をサポートし、若者の回帰定着を進めます。」<sup>3</sup>としており、市全体で若者の地元への定着を進める施策を進めていることがわ

かる。

## 2-2 若者を取り巻く状況

こうした飯田市を取り巻く現状の背景には、周辺の下伊那地域と合わせても4年制大学がなく、高等教育機関としては短期大学が1校、専門学校が1校あるのみで、高校からの進学者のほとんどが飯田・下伊那地域を離れる状況が挙げられる。現在、高校卒業時の進学者は全体の約70%であり、そのうち地元に戻っての就職者は、2022年度で約20%にとどまっている<sup>4</sup>。また、高卒者の地域内就職率は2022年度時点で17.63%<sup>5</sup>であり、若者の地域内就職率は全体で40%足らずにとどまっている。

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画の基本目標2「飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる」の中では、「新規高卒者の地域内就職率」、「新規大学等卒業生の地域内就職率」を2023年度末までにそれぞれを25%にする指標が挙げられており<sup>6</sup>、市全体として、若者の地域内就職率を全体で50%に上げたいと取り組んでいるのが現状である。

## 2-3 産業を取り巻く状況

一方、飯田市の産業の特徴は「おじや産業」と言われるものであり、地元企業の会員約240社の飯田職業安定協会から発行されている『ZOOM in IIDA 企業ガイド飯田下伊那2023』<sup>7</sup>の冒頭で紹介されている産業種別も、「ハイテク産業」、「水引産業」、「食品産業」、「建設産業」、「小売・サービス産業」、「観光産業」と幅広く、それぞれの産業が特徴を活かして発展してきている様子が伺える。

また、飯田職業安定協会が2023年2月2日に開いた定期総会において、会長が「新規学卒者については企業の充足率が低」とし、「本年度も高校生や大学生に管内企業に対する興味と認識を深めてもらえる事業を計画している」と述べており<sup>8</sup>、地元企業においても、若者に地域内企業に就職してもらうための働きかけが重視されていることがわかる。

## 2-4 図書館を取り巻く状況

飯田市立図書館は、中央図書館1館、鼎図書館・上郷図書館の地域館2館、コンピュータシステムによる貸出・返却を行っていない分館16館で構成されおり、図書館コンピュータシステムは近隣の2町2村と「南信州図書館ネットワーク」を組んで、1つのシステムを共同利用している。

社史を活用した地元企業と高校生をつなぐ企画への追い風として、2022年5月19日に飯田駅前にオープンした複合施設「ムトスぷらざ」内に飯田駅前図書館が開館した点が挙げられる。この「ムトスぷらざ」は市民が交流できる場所、やりたいことに

チャレンジできる場所となることをねらい、飯田市公民館などが入る複合施設として整備されており<sup>9</sup>、駅前という立地によりフリースペースには毎日高校生が70人ほど来ている現状がある。飯田市立図書館としても、この飯田駅前図書館では高校生に向けたサービスを中心に展開しており、その一環として、社史を活用した地元企業と高校生をつなぐ企画を飯田駅前図書館で実施することで、若者に地元企業を知ってもらうこと、地元企業を就職先の選択肢に入れていくことに効果的に働くのではないかと考えた。

### 3. 社史でつなごう！地元企業と高校生

#### 3-1 事業概要

若者に地元企業を就職先の選択肢としてもらうため、高校1・2年生を対象に図書館で所蔵する社史を活用して飯田・下伊那地区にある企業の展示・講座を飯田駅前図書館で実施するものである。対象を高校生としたのは、飯田・下伊那地域で暮らす間に地元企業を知り、企業と関わる機会を作るためであり、高校3年生は実際の進路選択の時期を迎えているため、今回は高校1・2年生を対象を絞ることとする。

#### 3-2 地元企業の社史について

『ZOOM in IIDA 企業ガイド飯田下伊那 2023』で紹介されている地元企業64社のうち、図書館で社史を所蔵している企業は14社ある。飯田印刷工業組合が組合のあゆみをまとめた『翔印刷想』<sup>10</sup>や飯田精密機械工業会の『精密機械工業のあゆみ50』<sup>11</sup>の中で紹介されている企業を含めると、その数は30社にのぼる。

飯田市立図書館のホームページで「企業のあゆみを記した『社史』は、その歴史だけでなく、その会社の業務内容や給与、社内研修制度や福利厚生などさまざまなことを知ることができます。」<sup>12</sup>と紹介しているように、社史を活用して地元企業の紹介展示を行うことにより、その企業の業務内容はもちろん、そこで働く社員の方の様子も伝わり、高校生が将来就職先の選択肢として地元企業を検討する際にも身近に感じられる要素があると考えられる。

#### 3-3 事業の具体策

##### 3-3-1 企業紹介展示

図書館が所蔵する社史と『ZOOM in IIDA 企業ガイド飯田下伊那 2023』を活用して、企業紹介展示を実施。加えて、その企業が製作している商品や部品等も展示し、実際の業務内容がより具体的に伝わる工夫をしたい。

『ZOOM in IIDA 企業ガイド飯田下伊那 2023』を活用させていただく関係で、飯田職業安定協会との連携も考えている。協会としても若者へのアプローチを重要と

考えている現状があるため、ホームページの「イイダカイシャナビ」<sup>13</sup>でも展示内容の紹介を行いたいと考えている。

展示期間は1企業2ヶ月間で、1年間で6企業を紹介することとし、展示終了後にもその展示内容を来館者が閲覧できるよう、ファイルにまとめて図書館の所蔵資料とする予定である。

### 3-3-2 地元企業と高校生のコラボ講座

展示期間の2か月の間に、展示で紹介している企業の社員が講師となる高校1・2年生対象の講座を開催する。講座内容は、その企業が高校生とやってみたいこと、高校生とできることを想定しており、講師となる企業にとっても講座で高校生とのつながりをつくり、高校生の意見や考えを知ること、若い世代が働きやすくなる企業づくりに活かせるのではないかと考える。

また、講座の事前打ち合わせにおいて、地元企業に社史の内容にも触れてもらうように依頼し、高校生が興味を持てるようなものとしたい。

## 3-4 事業の具体例

ここで、図書館で社史を所蔵し、『ZOOM in IIDA 企業ガイド飯田下伊那2023』に掲載されている地元企業を例に、具体的な事業内容を考えてみたい。なお、ここで例に挙げた企業はあくまで一例であり、これらの企業が企画に参加する意思を示しているものではないことをご承知おきいただきたい。

### 3-4-1 旭松食品株式会社

「こうや豆腐」メーカーとして創業し、大豆を原料とした食品を主に製造している旭松食品株式会社は、1981年に『旭松三十年の歩み』<sup>14</sup>、2001年に『旭松食品50年の歩み』<sup>15</sup>の2冊の社史を出版している。社史には、企業理念やそれまでの歴史はもちろん、商品や広告宣伝活動の変遷も紹介されている。商品の変遷をパネル展示するのに合わせて、現在製造している商品の展示や日本初の「おからパウダー」の紹介などを行い、図書館で所蔵する関連資料の展示も行うこととしたい。高校生向け講座としては、「おからパウダーを使った料理講座」や「おいしいこうや豆腐の食べ方講座」などが考えられる。

### 3-4-2 小林製袋産業株式会社

多種多様な果実袋を生産し、全国各地の農家に販売している小林製袋株式会社は1973年に『二十五年史（小林製袋産業株式会社）』<sup>16</sup>、1982年に『果実袋記念誌』<sup>17</sup>を出版している。製造している果実袋の展示や製造過程をパネル展示し、社史を

活用しての果実袋の歴史も紹介する予定である。果実袋は高校生に馴染みがあるものではないが、農業高校と連携して、高校で使っている果実袋やその果実袋を使って育てた果実なども紹介することで、高校生が興味を持つ内容にできるのではないかと考える。講座についても、高校生が使っている果実袋の開発秘話を聞くなど、高校とコラボした内容で計画する予定である。

#### 4. おわりに

今回の事業を提案するにあたり改めて地元企業の社史を読んでみると、大人でも興味をひくような内容が書かれていることが分かった。事業の対象を高校1・2年生としたものの、図書館で行う展示は高校生に限らず、子どもから大人までの幅広い来館者に見てもらえる機会に恵まれている。企業紹介の展示を親世代、祖父母世代が見て、子どもや孫に地元の企業への就職を勧める、小学生が地元企業に興味を持ち夏休みの調べ学習のテーマにするなど、さらなる広がりも出てくる可能性を秘めたもののように感じている。

これは社史を通じて、多くの市民の方たちが地元企業に興味・関心を持つことを意味している。このようにしていくためには、「堅苦しい」「読みにくい」といった印象の社史を市民の方たちにいかに興味を持ってもらえるように紹介するか、それこそが司書の力量が問われている部分である。市民に興味を持ってもらえる社史を通じた企業紹介を行い、高校生が来たくくなるような講座内容を地元企業や高校と連携しながら考えられる司書となり、図書館でよりよいビジネス支援サービスを展開できるよう、今回受講したビジネス・ライブラリアン講習会の内容を活かしていきたい。

---

<sup>1</sup> 『いいだ未来デザイン 2028』

<https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/61106.pdf>

<sup>2</sup> 『いいだ未来デザイン 2028 戦略計画【2017年度】』

<https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/31690.pdf>

<sup>3</sup> 『いいだ未来デザイン 2028 戦略計画【2021年度】』

<https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/49795.pdf>

<sup>4</sup> 『いいだ未来デザイン 2028 戦略計画【2023年度】』

<https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/60905.pdf>

基本目標2「飯田の魅力発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる」の「進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）」にある「新規大学等卒業者の地域内就職率（%）」が、令和4年度時点で19.57%である。

<sup>5</sup> 『いいだ未来デザイン 2028 戦略計画【2023年度】』

<https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/60905.pdf>

基本目標2「飯田の魅力発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる」の「進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）」にある「新規高卒者の地域内就職率（%）」。

- 
- 6 『いいだ未来デザイン 2028 戦略計画【令和5年度】』  
<https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/60905.pdf>  
『いいだ未来デザイン 2028』では、4年ごとの基本的方向に基づいて毎年、分野横断的に戦略的かつ重点的に取り組むものを「戦略計画」として組み立てている。
- 7 『ZOOM in IIDA 企業ガイド飯田下伊那 2023』  
[https://iidajob.com/online/wp-content/uploads/2022/02/zoom\\_in\\_iida\\_2023\\_s-all.pdf](https://iidajob.com/online/wp-content/uploads/2022/02/zoom_in_iida_2023_s-all.pdf)
- 8 2023年2月4日付『南信州新聞』
- 9 「ムトスぷらざ」施設案内パンフレット  
<https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/56251.pdf>
- 10 『翔印刷想 飯田印刷工業組合 60周年記念誌』 長野県飯田印刷工業組合 2010年3月
- 11 矢澤律子／編『精密機械工業のあゆみ 50』 飯田精密機械工業会 2007年9月
- 12 飯田市立図書館ホームページ お仕事支援サービス (2023年3月現在)  
<http://www.iida.nanshin-lib.jp/0000000373.html>
- 13 飯田職業安定協会「イイダカイシャナビ」  
<https://iidajob.com/>
- 14 「旭松三十年の歩み」編集委員会／編『旭松三十年の歩み』 旭松凍豆腐 1981年
- 15 『旭松食品 50年の歩み』 旭松食品 2001年
- 16 永井喬／編『二十五年史 (小林製袋産業株式会社)』 永井喬 1973年
- 17 小林製袋産業／編『果実袋記念誌』 小林製袋産業 1982年